

## 平成 29 年度マネジメント・カフェ

### 【開催概要】

開催日時:平成 30 年 2 月 20 日(火)午後 6 時~午後 8 時

開催場所:東京理科大学 葛飾キャンパス 研究棟 WEST2 階 多目的ルーム

主 催:葛飾区産学公連携推進協議会・葛飾区・東京理科大学

テ ー マ:「日本の中小企業の生き残り戦略 ~ニッチや自社製品は王道にあらず?~」

講 師:東京理科大学イノベーション研究科 技術経営専攻 講師 岸本 太一氏

参 加 者:区内企業 18 社、区外企業 3 社、計 21 名

### ■内容

岸本先生が国内外 500 を超える拠点を訪問し、現場見学とインタビューを用い実態調査を行って集めた生の情報を基に創った独自の理論をご講義いただきました。

・企業の長期存続を分析解明するフレームワークとして、pressという理論を披露。

pressは岸本氏の造語であり、pはポジショニングで戦略的決定、reはリソースで経営資源、sはストラクチャーで自社が所属する業界の市場構造、sはサバイヴで企業存続を表している。

pressは採用した戦略が長期存続に繋がるか否かを分析する際の基礎フレームワークとして機能し、それぞれの因果関係について説明することができる。

・この理論に独自に取材分析した20社を当てはめ、多くが取ってきた戦略について、ポジショニングを「既存の製品・業務へ集中・継続」、「製品・サービスを提供する顧客・産業は変更」、「単に製品を提供するだけでなく、新製品普及支援サービスも提供」と分析。そして、その戦略を採用することで「既存の製品でも、新たな需要が生まれる」、「既製品だけでなく新製品であり、かつ製品設計や工程は受注後にアレンジし、受注初期は独占に近い状況がつかれる」こととなり、それが新しい仕事からカネを獲得し、企業の存続が可能となると、細かく説明いただいた。

また、経験豊富な日本の企業は、中国の企業などよりも応用力があり、アレンジ能力においても深い蓄積があったとした。

このアレンジ能力は、アレンジが必要な仕事の中で生まれ、自社製品の設計図や作業工程を顧客のニーズを満たすようカスタマイズ・カイゼンすることで蓄積されていく。

中小製造業の生き残り戦略の核となるのは”アレンジ能力”であるとし、それを踏まえ、営業力、アレンジ能力の必要性とともに既存事業以外での拡大を抑制することなどで、press理論のプラスのサイクルを維持することが企業の長期存続を可能とするとした。

・講義後半の質疑応答では、多くの受講者がこのpress理論に自社を当てはめ、疑問点や改善点などについて質問をし、岸本氏とディスカッションをした。

## ■ 講義の様子



## ■ 受講者の評価

講義内容について 70%が「非常に興味深く、得るところが多かった」、25%が「まずまず面白い講義だった」と回答。

講義の感想としては、「フレームワークを活用して、現状を整理したいと思った」、「調査対象社が多々有り、大変理解しやすかった」、「非常に良い内容でした。迷いがなくなった。」、「経営に関する具体的な事例を用いた説明がとても良かった。特に press 戦略の説明は分かりやすく、自社でも似た事例が有る事に気付けた。」、「今後、自社の技術を生かしてアレンジし、永く、継続していきたいと思う」などが寄せられた。

今後要望するテーマは、「組織/人材」「マーケティング」「業務改善/業務改革」「生産性向上」に続いて、「新事業開発」「事業承継」「IT 活用 (IoT, AI など)」と続く。また、マネジメント・カフェが開催される場合、「ぜひ、参加する」もしくは「参加を検討したい」という回答が 100%であり、非常に魅力的な内容の講義となった。